

各球団の総合満足度スコア

1. 各球団の総合満足度スコア平均値と平均値に基づくランキング

2018年1月下旬調査

順位	球団	総合満足度 スコア平均値	標準偏差
1位	広島	74.06	15.00
2位	ソフトバンク	72.73	16.12
3位	横浜DeNA	67.34	15.18
4位	阪神	64.70	15.39
5位	楽天	64.56	16.28
6位	日本ハム	64.47	16.31
7位	西武	63.39	15.06
8位	ロッテ	60.41	15.50
9位	ヤクルト	56.61	17.02
10位	巨人	56.23	17.72
11位	オリックス	54.76	16.16
12位	中日	47.27	19.82

2017年1月下旬調査

順位	球団	総合満足度 スコア平均値	標準偏差
1位	広島	73.82	15.52
2位	ソフトバンク	70.84	15.01
3位	日本ハム	68.31	13.74
4位	横浜DeNA	64.84	16.21
5位	ロッテ	63.41	16.05
6位	楽天	61.91	15.17
7位	ヤクルト	61.05	15.18
8位	阪神	58.60	16.72
9位	巨人	57.94	17.13
10位	西武	57.55	17.31
11位	オリックス	50.18	14.69
12位	中日	43.41	18.80

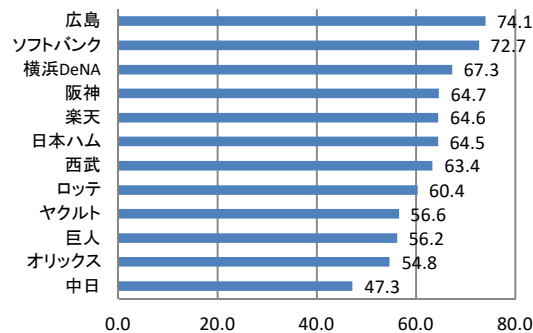
2016年1月下旬調査

順位	球団	総合満足度 スコア平均値	標準偏差
1位	ソフトバンク	72.59	16.32
2位	日本ハム	66.45	15.09
3位	ロッテ	63.51	16.54
4位	ヤクルト	63.05	14.74
5位	楽天	62.92	14.79
6位	広島	62.47	13.90
7位	西武	61.37	16.25
8位	阪神	60.03	16.24
9位	巨人	59.42	15.86
10位	オリックス	58.43	17.09
11位	横浜DeNA	57.99	15.31
12位	中日	48.44	17.12

2015年1月下旬調査

順位	球団	総合満足度 スコア平均値	標準偏差
1位	広島	71.01	14.11
2位	日本ハム	69.97	14.54
3位	ソフトバンク	69.71	16.68
4位	オリックス	64.86	15.65
5位	阪神	62.06	16.21
6位	楽天	61.74	14.47
7位	ロッテ	58.37	16.08
8位	ヤクルト	57.61	15.07
9位	巨人	57.58	16.45
10位	西武	55.16	16.88
11位	横浜DeNA	53.73	16.22
12位	中日	50.55	16.21

2018年1月下旬調査における各球団の総合満足度スコア平均値のグラフ



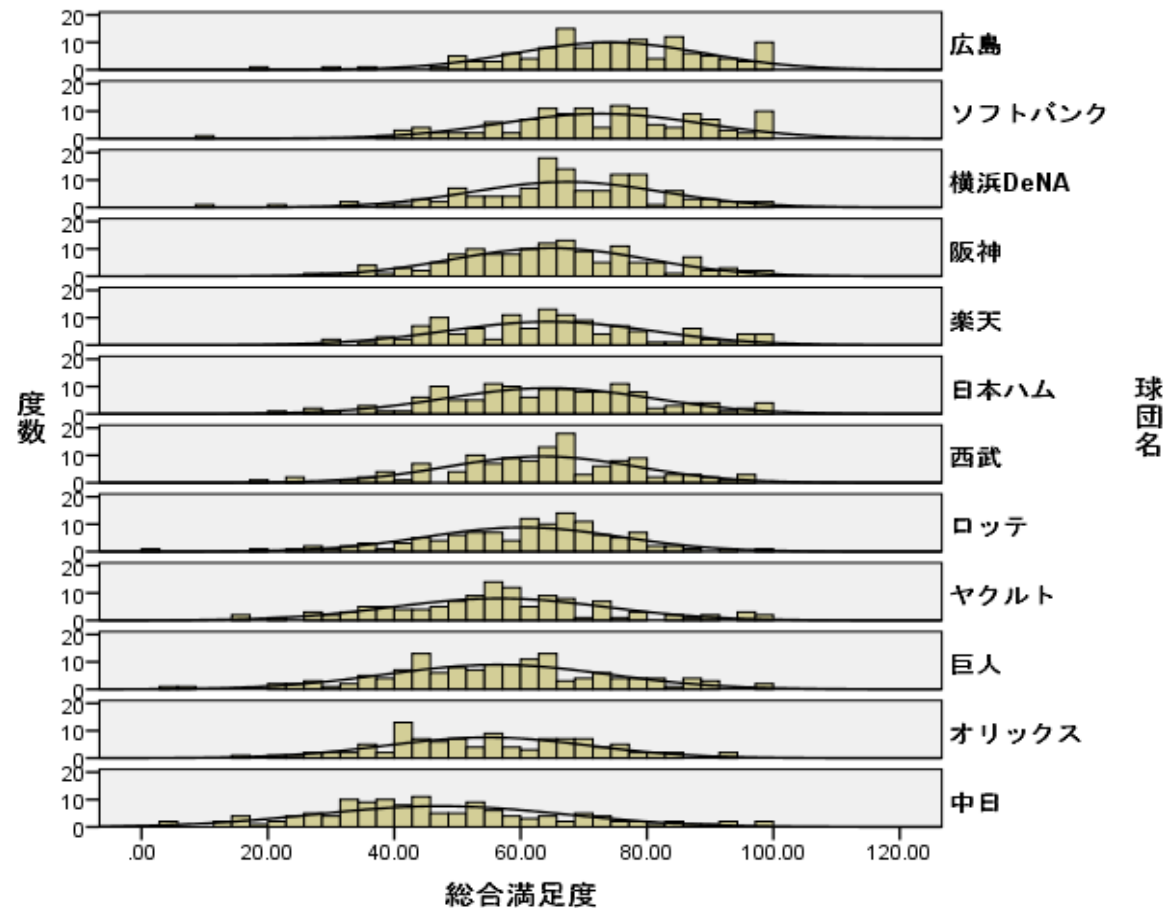
2つの球団のスコア平均値の差の検定: 5.0%最小有意差(l.s.d)の目安

$$l.s.d = 1.96 * \sqrt{(2 * 15.0^2 / 120)} = 3.80$$

ただし、スコアが正規分布に従い、各球団からのサンプリングが独立で、それぞれのサンプル数はn=120、標準偏差はσ=15.0とした場合の値である。

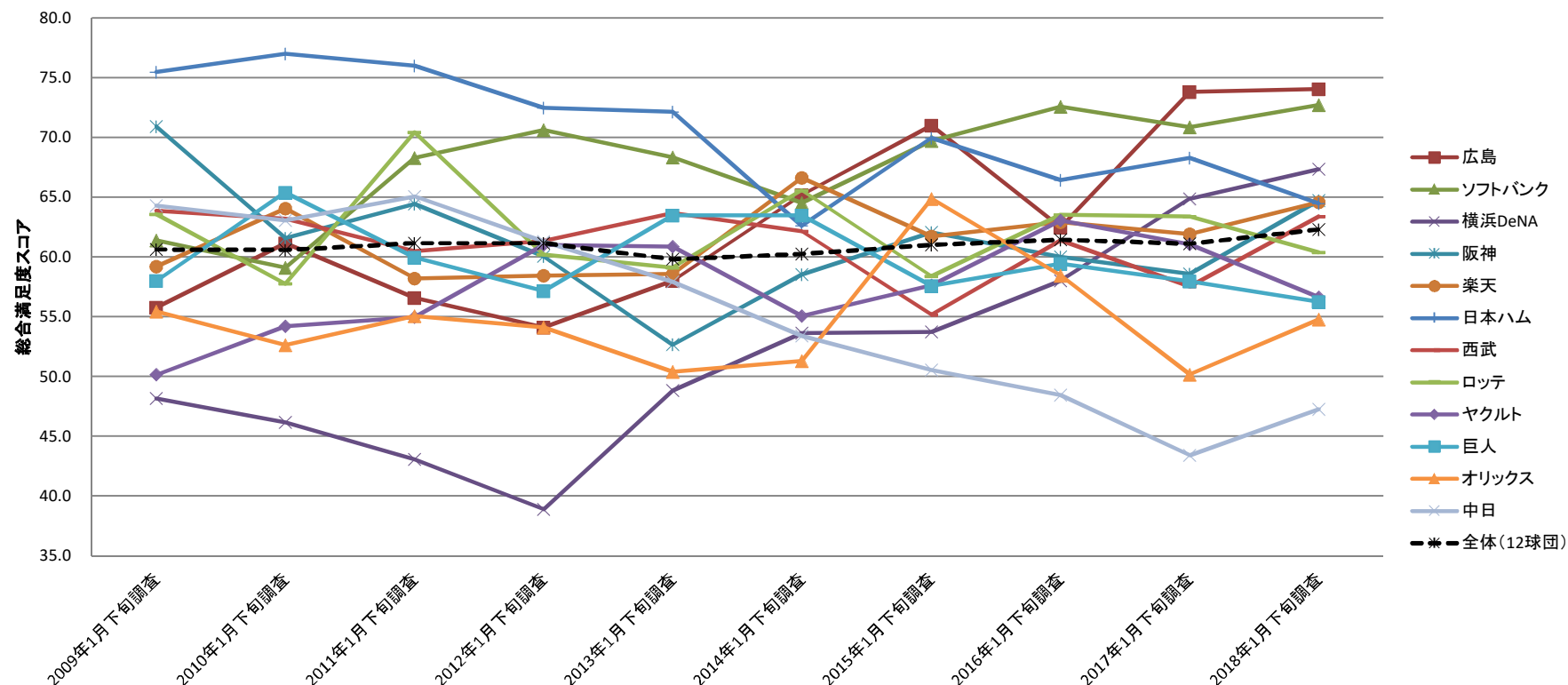
- 総合満足度スコアは、共分散構造分析モデルから求まる「総合満足度の潜在変数スコア」を標準化したものである。
- 具体的には、「総合的な満足度」と「総合的に見た場合の理想への近さ」の2項目の評価に重きを置き、さらに「チーム成績」「チーム選手」「球場」「ファンサービス・地域貢献」「ユニホーム・ロゴ」等の項目の総合満足度への影響度を考慮しながら、各項目の評価の加重平均として算出している。
- これらの項目のウェイト(因子スコア・ウェイト)は、共分散構造分析モデルにもとづき求めている。

2. 各球団の総合満足度スコアの分布（2018年1月下旬調査）



●各球団の総合満足度スコアの分布は、おおむね対称な正規分布に近い形状をしている。
●各球団の評価については、広島、ソフトバンク、横浜DeNA、阪神の順で高評価である。

3 各球団の総合満足度スコア平均値の経年変化



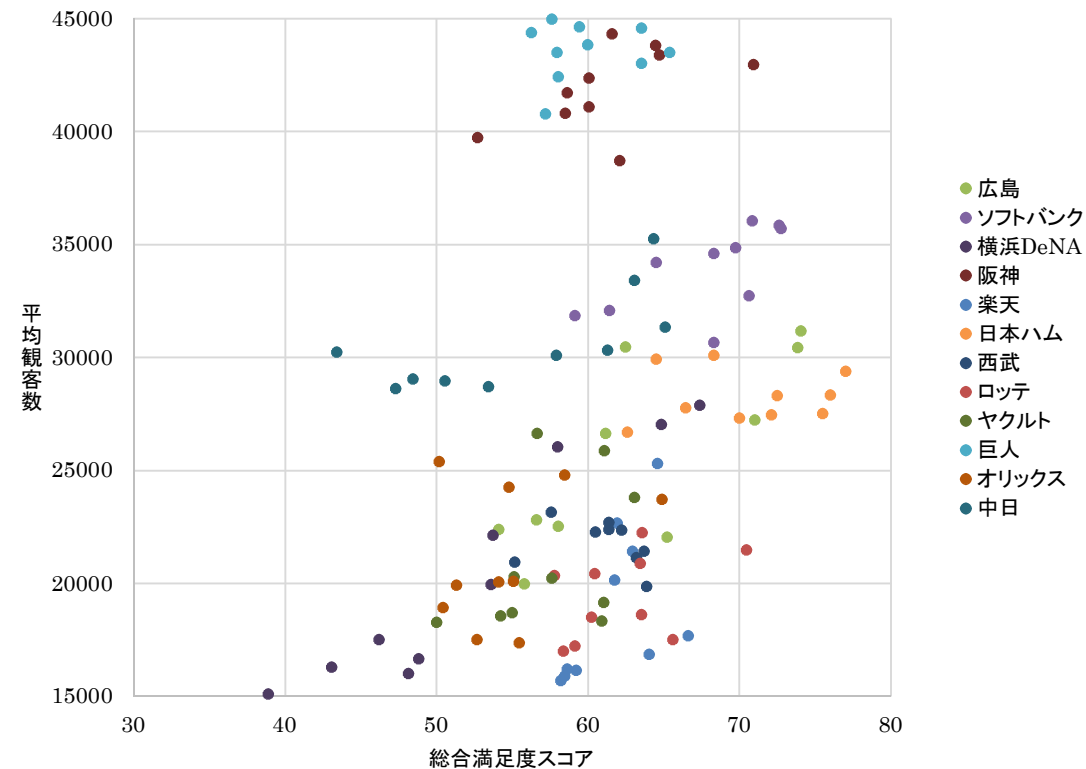
- 広島**：2018年1月下旬調査でも2年連続、3回目の総合満足度1位(74.1)となった。2017年シーズンでは、2年連続のリーグ優勝を成し遂げて、菊池涼介選手、新井貴浩選手、丸佳浩選手、鈴木誠也選手らの活躍も注目されている。2009年の新球場への移転をきっかけにサービスが劇的に向上し、若手選手の台頭から「カープ女子」と呼ばれる女性ファンも急増し話題となった。近年はチーム力も向上し、高水準での総合満足度1位となっている。
- ソフトバンク**：2018年1月下旬調査では総合満足度2位(72.7)となった。2017年シーズンでは圧倒的な強さでリーグ優勝、日本一となった。チームの強さだけでなく、柳田悠岐選手、松田宣浩選手、今宮健太選手、サファテ選手など魅力ある選手が多い。球場でのファンサービス、地域貢献活動の取り組みも良いとされ、その結果が、チーム・選手の魅力、ファンサービス・地域貢献などが高い評価を得ており、総合力が高水準を維持している。
- 横浜DeNA**：2018年1月下旬調査では3位(67.3)となった。近年のファンサービス、球場でのサービスの向上、さらに、2017年シーズンはチーム成績もリーグ3位からCS、日本シリーズと快進撃し、満足度が上昇している。回答者の声としても、親会社の球団経営、ファンサービスに対する熱意を感じているコメントが多い。筒香嘉智選手、宮崎敏郎選手、山崎康晃選手の活躍も大きく影響していると考えられる。さらに、チーム力が向上し、優勝すれば、総合満足度1位となるのが期待される。
- 中日**：2018年1月調査下旬調査でも総合満足度スコアの順位が12位(47.3)となった。2017年シーズンでもチーム成績は低迷し、チーム・選手の魅力度の評価も低下している。ファンサービス・地域貢献に対する評価も低いのが現状である。球団トップが明確なビジョンや方針を示し、チーム力、選手育成方針、ファンサービス・地域貢献の向上のための抜本的な対策が必要と考えられる。

4. 総合満足度スコアと平均観客数の散布図

（10年分の調査データと直近のシーズンのホーム球場の平均観客数を使用）

ホーム球場の平均観客数

出典:「2009-2018 ベースボール・レコード・ブック」、ベースボール・マガジン社



球団ごとの群が存在するが、おおむね、総合満足度スコアと平均観客数の間には正の相関がある。相関係数は $r=0.295$ (1%有意)となった。